

# 足立学園生徒会報

今月は臨時  
特別号です！  
2019

4

## 新学期がスタートしました！

仲春の候、皆さん春休みはいかがお過ごしでしたか？ 学年が1つ上がったり、新たな生活に足を踏み入れた人もいると思います。ここでは「90」と「3」という数字の意味について考えていくとと思います。まず、「90」という数字です。皆さんもう既に気づいた人もいるかと思いますが、今年で足立学園は創立「90」周年を迎えます！我が母校であるこの足立学園は1929年～2019年まで数多くの歴史を刻み、伝統を守り抜いてきました。その「90」年の歴史の中には私たちが作り上げたものも歴史として刻まれています。なので高校3年生と中学3年生はこれから歴史を作っていくものとしてまた、新入生はその仲間入りをするのだという思いを忘れずにこの1年を過ごしていきましょう。次に「3」という数字です。この数字には2つの意味があ

ります。1つ目は、高校「3」年生の「3」という意味です。高校「3」年生の皆さん、ついに最高学年という立場、そして何とも受験生という立場になりましたね。なぜなら！受験は恋愛と似ています。本命の大学に合格=彼女をgetする事と同じです！その大学（彼女）をよりいいそくするためには、いっぽい調べて、その大学受験（告白）に合格するために1日1日を大事に、焦らずマイペースでコツコツと努力していましょう！「努力は報われるのではなく、報われるために努力をするのです！」またもう1つの意味は、高校生活と中学生生活は「3」年しかないという意味です。一見長いように思えますがいざ過ごしてみると、とてもあっという間です。ならば後悔ではなく、やって良かったと心から思えるようにしましょう。人生においてたったの「3」年間ですが、その「3」年間が自分にとってかけがえのない「3」年間になるようにしていましょう！

## 中学生徒会新役員就役

### 旧 生徒会長 奥村 悠剛くん



皆さんこんにちは。平成30年度生徒会会長の奥村です。昨年度は「生徒から信頼される生徒会」という目標を持って1年間やってきました。様々な行事に参加するなかで生徒の笑顔が少ないということに気がつきました。その事実が僕にとっては心残りです。今年度の生徒会は経験者も多いです。昨年度の経験を生かして生徒が心から楽しめる行事を増やしていくってほしいと思います。生徒の皆さんも楽しい学校生活を送ってください！1年間ありがとうございました！！

### 新 生徒会長 永井 健太くん



皆さんこんにちは。中学生徒会長の永井健太です。私は昨年、副会長を務めさせていただきました。この1年間で私が一番感じたことは、学校の仕事を遂行する責任感でした。学校の代表として行事などを運営することにやりがいを感じました。しかし、昨年の私はまだまだ力不足で、先輩方や他の生徒会役員に力を借りて、なんとか役割を果たさせていました。なので今年は、自分が先頭に立ち、他の生徒会役員、そして全校生徒を引っ張って行けるような存在になりたいと考えています。これから1年間、どうぞよろしくお願い致します。

### 新中学生徒会役員

会長 永井 健太	書記 佐々木 嵩仁
副会長 清水谷 月海	小泉 濑太
渋谷 音羽	会計 高橋 大輝
富田 駿	栗山 広幸

### 高校生徒会より・・・

旧生徒会の皆さん、一年間ご苦労様でした。仕事もテキパキとこなし全力を活動してくれて、本当に助かりました。引退しても持ち前の「全力さ」を忘れない高校生になつても頑張ってください。新生徒会は先輩方の「全力さ」を肌に感じたとと思うのでそれを受け継ぎより良いものにして旧生徒会に負けないように全力で活動していきましょう！

諸事情により掲載出来ません。

新しい足立学園の先生の紹介

生徒会から新任の先生方へ一言挨拶をしたいと思います。新任の先生方、足立学園へようこそ！足立学園は「十人十色」という言葉があるように、生徒一人一人がそれぞれの個性（千三百三十五色）を持っていて、とても活気のある学校です。これから色々とよろしくお願い致します。

諸事情により掲載出来ません。

# 諸事情により掲載出来ません。

新一年生向けに  
スターターガイドブック  
を制作しました。

今年度もたくさんの新入生が入学しました。新一年生向けに生徒会報作成チームでスターターガイドブックを制作して配布しました。ここでは、今回発行された冊子の中から一部を抜粋して掲載したいと思います。

## 校歌に関するよもやま話

足立学園の校歌は1934年(昭和9年)に制定されました。実は、この校歌について「幻の1番」が存在しました。戦後にこの「番」の歌詞は削除されました。歌詞の相手から当時の日本の様子をうかがうことができます。現在の校歌は制定当初の校歌の2番と3番ということになります。作詞は大正・昭和期の日本近現代史の歴史学者で東京帝國大学(現東京大学)名誉教授の中村孝也です。歌詞にある「筑波の高嶺」は足立区から約70kmの茨城県に屹立する筑波山のこと指します。開校当時は勿論、周囲に高い建物はありませんのでよく筑波山を望むことができたのでしょうか。作詞に珍しく学校名があります。この旧戸山学校とは日本陸軍の軍学校で、陸軍を代表する軍楽隊として陸軍戸山学校軍楽隊を有していました。

## 足立学園校歌

中村孝也 作詞 旧戸山学校 作曲  
 昭和の春の高嶺(たかね)に登らせたまひし記念のしるし  
 武藏の広野にいしうまく  
 我等の学び舎み空(さかひら)に響ゆ(ひびゆ)  
 強きこころうとき至誠  
 いざや拂げん皇國のために

都の北門(ほくもん)千住の里に  
 朝日の光のたださすところ  
 筑波の高嶺(たかね)を軒端(のせば)に仰ぎ  
 進みて捨(すて)まぬ健児(けんじ)の歩み  
 高き理想輝く希望  
 いざや登らん峰のきはみ  
 荒川堤の流れのはとり  
 瞳(ひとみ)を放ちて眺めやれば  
 一望の水原風景をほほえんで



皆さん、校歌に「幻の1番」の歌詞が存在していたことをご存知ですか? 詳しい経緯やその他の学校に関する歴史は90周年記念コーナーにて知ることができます。是非、皆さんも足を運んでみてください。

# 1月 2月 3月の生徒会活動報告

## 各種アンケートを実施

昨年度は皆さん、携帯アンケートに引き続き競技大会アンケートにご協力していただきありがとうございました。競技大会のアンケート集計結果については下記に掲載しましたのでご確認ください。

高校対象 生徒会競技大会アンケート調査結果開示 (平成31年2月28日月曜日1限LHRにて実施)

### 設問

①競技大会の競技について (割合/変更)

	統計	率	統計	率	
①競技	323	66.6%	③必要	318	65.6%
②変更	161	33.2%	④不要	164	33.8%

②部活動の生徒が審判することについて (妥当/不当/結構)

	統計	率	統計	率	
①妥当	207	42.7%	④結構	434	89.5%
②不当	85	17.5%	③変更	49	10.1%

③競技大会の必要性について (必要/不要)

	統計	率	統計	率	
②妥当	207	42.7%	③必要	318	65.6%
③不要	164	33.8%	④結構	190	39.2%

\*現在は生徒会役員8人が準備をしております。

### 結果

	統計	率	統計	率	
①競技	323	66.6%	③必要	318	65.6%
②変更	161	33.2%	④不要	164	33.8%

	統計	率	統計	率	
②妥当	207	42.7%	④結構	434	89.5%
③不当	85	17.5%	③変更	49	10.1%

	統計	率	統計	率	
②妥当	207	42.7%	③必要	318	65.6%
③不要	164	33.8%	④結構	190	39.2%

## オールあだち文化祭に参加

3月17日(日)

足立区生涯学習センターにて

皆さんの中には、「生徒会って学校内の仕事しかないのかな?」と疑問に思う方いるかと思います。しかし、生徒会が行っている仕事は学校内のことだけではないんです! 足立区内の奉仕活動や、イベントの運営なども行っています。その中でも代表的なのが、3月17日に開催された「オール足立文化祭」です。このイベントは足立区の高校生がダンスや、軽音楽などを披露し合うイベントのことです。生徒会はこのイベントの運営スタッフとして参加しました。「このイベントの魅力は?」と気になる方も多いと思います。このイベントの魅力はやはり、普段はなかなか関わることのない他校の女子と仕事ができる事ですね…。いやいや、そんなことはありません! ほんの冗談です(笑)。魅力は、他校の生徒同士が自分たちの出し物を見せ合い、お互いの良いところを共有し合い共に高めていくことができるということです。今年も去年に引き続きとてもクオリティが高く、見ていて圧倒されるような出し物ばかりでした。なので、来年もこのイベントにできる限り参加していきたいと考えています!

## 第4回高校生が集う オールあだち文化祭



## ペットボトルについてお願い

今年度もペットボトルのキャップ回収を実施します。飲み終わったペットボトルはキャップと一緒に捨てず、キャップは回収箱へ、ボトルはラベルをはがしてゴミ箱にお願いいたします。キャップの回収ラベルは各クラスに設置しており、定期的に回収をしますが、万が一カゴ満杯になってしまった場合は、2階のエレベーターホール付近にも回収箱を設置していますのでそちらの方までお願いします。ご協力お願いいたします。

キャップはカゴへ

ボトルはゴミ箱へ

## 編集後記

「新学期をどのような思いで迎えれば良いのか?」や、「新任の先生を快く迎えるにはどうしたら良いのか?」や、「新入生の生徒に学校のことを知ってもらうにはどうしたら良いのか?」など。そんな疑問から今号の生徒会報の作成は始まりました。新たな生活に不安を持っている新入生の、そしてより全校生徒の皆さんの方になりたい…そんな私たちの気持ちが少しでも伝われば嬉しいです。

